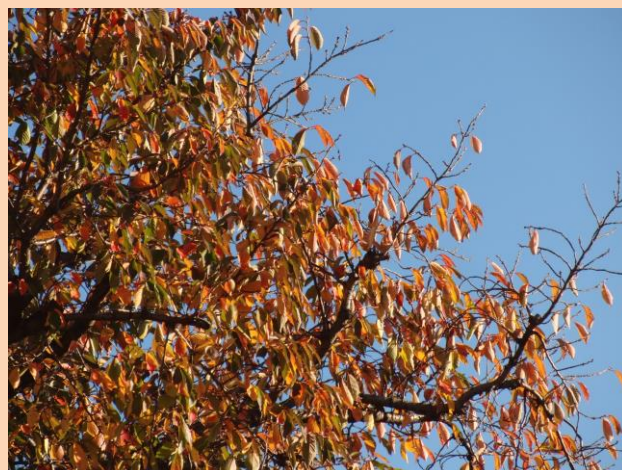


大泉あさひで通信

発行：社会福祉法人 大泉旭出学園 旭出生産福祉園 〒178 - 0063 東京都練馬区東大泉 7 - 21 - 32
Tel 03 - 3925 - 6166 Fax 03 - 3925 - 6169 HP <http://www.asahide.or.jp/>



戦後 70 年、日本の障害児者の教育・福祉の現状と課題

旭出生産福祉園園長

浅井 浩

◇障害児者の教育と福祉の制度変遷と現状

戦後に発足した学校教育制度は、障害児の教育も義務制にし、盲学校・聾学校・養護学校（知的障害・肢体不自由・病弱を対象）というように障害種別で学校を区分し、それらを特殊教育諸学校とし、特殊教育諸学校での教育を「特殊教育」と称してきました。こうした障害種別の学校区分は平成 19 年 4 月から廃止され、学習障害や自閉症等の発達障害も教育の対象に含め、特別な教育的ニーズを抱える児童生徒に適切な教育指導と必要な支援を行うための「特別支援学校」に一本化されました。そして特殊教育は「特別支援教育」に改称され、現在に至っています。

一方、障害者福祉の制度基盤が整うのも戦後のことです。昭和 26 年に社会福祉事業の全分野に関わる「社会福祉事業法」が制定され、これにより行政主導のいわゆる措置による福祉サービス提供の仕組みである「措置制度」が続いてきました。この行政主導の措置による仕組みを、利用者本位の福祉サービス提供の仕組みに改めるといふ「社会福祉基礎構造改革」によって、社会福祉事業法は「社会福祉法」に改正・改称されました。この法改正によって、平成 15 年 4 月からは「措置」による福祉サービス提供の仕組みから「契約」による仕組みの「支援費制度」となりました。

ところが支援費の財源確保の問題などから、支援費制度は障害者自立支援法による制度へと移行し、その後さらに障害者総合支援法による制度へと移行して現在に至っています。

戦後から 70 年、人々の障害（者）についての

理解も進み、障害児の教育も義務制になっていきます。しかし義務制施行後の学齢期及びその後に関する諸問題は、基本的には変わらずに現在に至っています。特に、学齢期以降の暮らしに関する問題・課題は依然として変わっていないといっても過言ではないようです。

「完全参加と平等」をスローガンに掲げた国際障害者年（1981 年）を契機に、障害をもつ人も普通の市民と同じように地域で生活するのが当たり前だとするノーマライゼーションの理念が広まりました。日本でも施設から地域へという「脱施設」への方向が示されています。理念的にはそうした取り組みは定着しているようでもあります。そこには旧態依然とした問題や課題があり、現状は未だにそこから脱皮できてはいないと思います。

障害者支援の前提として「障害」をどのように理解し、どのように受容するかということが大切になりますが、そこには理念と現実のギャップがあるようです。

◇教育と福祉の連携の意義と重要性

「特殊教育」は「特別支援教育」に改められ、障害児者の教育や福祉の分野では、発達支援、自立支援、就労支援、地域生活支援というように「支援」が掲げられています。そうした支援の具体的な内容や方法はいうまでもなく人の生活を考えたものでなければなりません。

人の一生には必ず成長発達の時期があり、人は誰もがそうした発達期を経てやがて老化（衰退）、終焉へと向かいます。したがって発達支援にしろ自立支援にしろ、それは人の一生（生涯）に配慮した支援でなければなりませんし、就労支援とか地域生活支援とは要するに、人の生き方や生きがいにかかわる支援だと思えます。果たして現状はそうしたことを踏まえた適切な支援を実現しているかどうかが問題です。

例えば、知的発達に障害を有する場合の就労支援は、職業訓練や就職先を世話することで賃金が得られるようにすればそれだけでよいというものではありません。そこに施設での「福祉的就労」の意義とそのため支援の大切さがあるわけですが、なぜか一般企業への就労だけが価値や意味のあるような就労支援が行われているように思います。さらに地域生活の支援や自立支援ということでグループホームの利用を促すにしても、地域社会がそれを受け入れるには未熟であったり、グループホームの制度自体も確立しているとは言い難い現状です。

そもそも地域生活とか自立生活とは一体どうあればよいのでしょうか。そうした点の理解認識が不確かなままの「支援」に不備や混乱が生じているように思います。

日常生活で介助を受け、あるいは職業的、経済的に何らかの援助を受けている場合であっても、そうした支援システムが整備され、それを活用（利用）した生活が確立し、生活の拠りどころとなる居場所があり、その人が精一杯生きる力を発揮し、その生活に満足や納得をし、あるいはその人なりに安定した気分でも生活を保持できればそれも人の生き方であるはずで。そこに旭出学園の創設者・三木安正先生の著書「残されている夢」に記されている、人の一生を考えた「生涯教育」「生涯福祉」の意味があるわけです。

三木先生は、「教育」「福祉」とならべるとそれらは、違った領域の仕事のように考える人がいると思うが、福祉というのは人を幸福な状態にする目標であり、教育とは、それを達成する手段であると考えたほうがよいと思う。」とも述べています。教育も福祉も人が人としてよりよく生きるためのものであり、別々のものではないというところに教育と福祉の連携の意義と重要性とそのため課題があると考えます。

理学療法士

旭出生産福祉園は今年度から月一度理学療法士に来て頂くことにしました。

理学療法士とは Physical Therapist 略してPTとも呼ばれています。福祉園

としましては理学療法士の方に来ていただき、必要と思われる方の加齢などによる身体機能障害からの回復や体力、運動機能の維持のためのトレーニングの指示を仰ぎ、今後の活動に組み込むことによって一人ひとりの健康寿命を延ばしたいと考えています。

日頃の支援のなかで疑問に思っていたことが解決した方もいたのではないのでしょうか。過去には医師

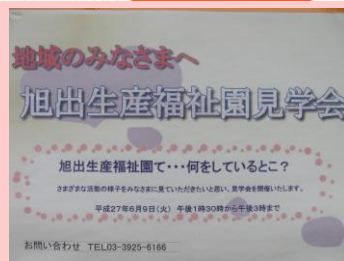


からの指示を受けリハビリテーションにご本人と職員が取り組めますが、ご本人の状態により調節するのかな、

ご本人の現状に今のリハビリテーション活動が本当に合っているのかと不安に思うこともありました。そうした日常の支援から生まれる疑問や不安も理学療法士の往診により、ご本人も支援者も安心してリハビリ活動に取り組むことが出来るようになりました。

旭出生産福祉園

見学会



越した中見学や活動内容までお伝えする機会がございました。より一層地域に開かれた施設を目指しました。

「旭出生産福祉園で：何をしているとこ？」。地域に根差して41年目になりましたが、その間に地域の様子も変わりました。近隣の方々には、勤労感謝祭や敬老感謝の会などでお



6月9日、地域の方々が6名見学会に参加してくださいました。ワークショップ、まんまる、カポックの小枝や舞りハ（軽運動）、入所棟などを見学されました。近所にある旭出生産福祉園の活動を興味深そうに見学されていました。

納涼会

祭

今年度の納涼会は小雨の降る中で行いました。

真夏の猛暑から一変して、夏とは思えない涼しさでした。

例年ですと皆さん浴衣や甚平を着て納涼会に参加しているのですが、今回はその涼しさのため着替えを控える方もいました。

8月に寒さで困ることがあるとは思わず、びつくりしました。

また、今年はアトラクションとしてブラスバンドとフラダンスをボランティアの方に披露していただき、楽しい納涼会となりました。



よいしょ!



私は浴衣で
キメました

ブラスバンド演奏



まず一組目は、
「東京学芸大学附属国際中等教育学校」
のブラスバンド演奏です。

スターウオーズや白雪姫のテーマなど
皆さんが知っている曲を色々な楽器で演
奏してくれました。

アンコールにも応えてくれ、至近距離
での迫力ある演奏に大盛り上がりでした。
息の合ったパフォーマンス、素晴らし
かったです!



飛び入り指揮者参上!



フラダンス



二組目は
「スタジオ ピリ アロハ」
のフラダンスです。

本場のフラダンスにウクレレの弾き語
り、小さい女の子たちも素敵に踊って
くれました。

また皆さんに白い花飾りをつけても
らい、一緒にフラダンスを踊りました。



☆花飾り☆

皆でフラダンス!



今年のゴーヤ

昨年に引き続き、今年もゴーヤ栽培に挑戦しました。

今年度のコンセプトは、ずばり「たくさん作ろう」でした。

昨年度は5mくらいであった範囲を20mほどに拡張し、30株ほどのゴーヤを植えていきました。

また今回はゴーヤカーテンではなく支柱と網を組み合わせてより広い範囲で栽培できる方法を試してみました。

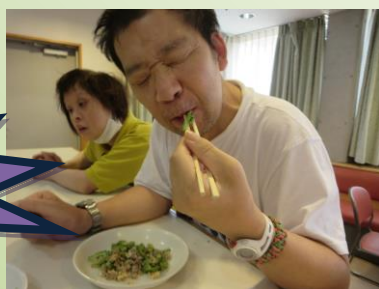


そして今年も大量のゴーヤが収穫できました。ひだまりのメンバーでゴーヤチャンプルーにして食べたり、福祉園の昼食としてだったり、皆さんに味わってもらいました。

収穫！



**ゴーヤ
チャンプルー**



お月見の会

9月27日の夜に食堂でお月見の会を行いました。

新職員の松本さんがお月見の絵本（自作！）の朗読をしてくれました。

保育の勉強をされていたので読むのがとても上手でした。

きれいな満月を見ながら、かぼちゃプリンを食べ、楽しい時間を過ごしました。



おでかけ

寮では一人で映画を見に外出したり、友達と買い物に行ったりする方がいる一方、外出をしたくても一人ではなかなか難しい方も多いです。

6月14日に女子プロレスを、6月21日にはプロ野球の試合を観戦に行きました。それぞれとても楽しまれています。

これからもなるべくこういった機会を作っていけたらと思います。



ネパール大地震緊急募金

旭出養護学校（特別支援学校）と旭出生産福祉園で行う合同行事、青葉のつどいでは2015年4月25日にネパールの首都カトマンズを襲った大地震に対して、募金活動を行いました。

受付に募金箱を設置させていたところ、合計4783円の募金がありました。集まりましたお金は、日本ユニセフ協会を通してユニセフに寄付させていただきます。ご報告いたします。ご協力ありがとうございました。



職員研修



8月、「発達障害の理解と対応」について講師に臨床発達心理士の月本由紀子先生をお招きしました。発達障害について、行動の特徴などをお話しただき大変参考になりました。支援に活かせるヒントも見つけられ、良い研修になりました。

浅草方面日帰り旅行



那須塩原方面一泊旅行



敬老感謝の会

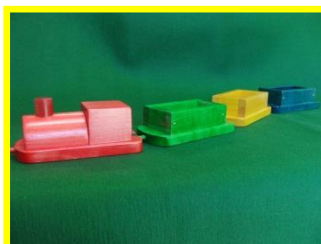
今年も旭出生産福祉園の食堂を会場に上泉地区町会連合会主催、福祉園協賛で「敬老感謝の会」が開催されました。



福祉園の利用者も参加し、地域の方々の日ごろの温かい見守りに感謝し、ご健康をお祝させていただきました。



工芸活動



利用者の方々は、バザー、工芸展のための準備に毎日取り組んでいます。

第26回 旭出学園 工芸展は平成28年3月2日（水）から7日（月）までの6日間、日本橋三越本店の新館7階ギャラリーで開催することが決まりました。

工芸展は旭出学園にとって、歴史のある催しです。みなさまどうぞよろしくお願いいたします。



『みなさまからのご支援ご協力に厚く御礼申し上げます』

この広報に記載されておりました、
ご寄付を頂いた方のお名前の一覧は、
ホームページに掲載するにあたり、
伏せさせて頂きました。ご了承ください。

後援会ご寄付ご芳名一覧（順不同）

平成二十七年四月～平成二十七年九月末まで



大泉旭出学園の事業につきましてはご高配を賜り感謝、お礼申し上げます。
特色ある独自性を発揮した事業展開とその充実を図っていくためには経営基盤
を固めていく必要があります。さらに多くの方々に後援会の会員になっていただ
きたく、会員の方々にはお知り合いなどにご紹介いただけたら幸いに存じます。
より一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。



編集後記

キノコ狩りの夢を見ました。
かごいっぱいキノコを
持ち帰りブラシで汚れを落と
しながらキノコ料理に思いを
巡らせている夢でした。現実
よりも夢の方が季節感があり、
さんねん・・・。

よてい

「勤労感謝祭」・・・11月21日(土)

「クリスマスフェア」・・・12月9日(水)～

11日(金)

「クリスマスパーティー」・・・12月25日(金)

「年末年始休暇」・・・12月29(火)～

1月3日(日)